

# 耕そう、大地と地域の未来。JAグループ 募集から就農・定着までステージに応じてサポート 日本各地で成果を上げる JAの新規就農支援



JAは農家のみなさんを総合的にサポートしています！

JAグループが進める「みんなのよい食プロジェクト」キャラクターの笑味ちゃん。©みんなのよい食プロジェクト

JA...「農業協同組合」の英語表記「Japan Agricultural Cooperatives」の頭文字を組み合わせたニックネーム。

## JAの総合力を活かした新規就農支援

地域の農家が協力し合い、農産物の販売や資材の共同購入など幅広い活動に取り組むJA（農協）が、各地で新規就農者の育成に力を入れている。

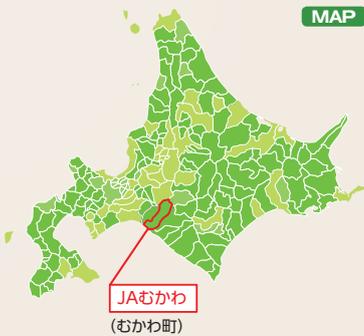
実家が農家ではない場合、「農業を始めたい」と思っても、何が必要で、どのような手順を踏めばいいのかわからないという人も多いはず。

JAの就農支援なら、農地や資材はもちろん、生産から販売まで技術・経営の両面にわたった相談・サポートが手厚く、注目が高まっている。とはいえ、すぐに一人前になれるほど、農業は甘くないことも事実だ。就農への熱い思いに応えてくれるJAの取り組みと、努力を重ねて独立就農した先輩たちの声を聴いた。

## 北海道 JAむかわ

春レタス・トマトの施設栽培による通年型農業が確立されているむかわ町では、地元農業者が組織する受入協議会と、町・JA等の関係機関が構成する地域担い手育成センターが連携して新規就農支援に取り組む。就農希望者は短期農業体験を経て町へ移住し、最長2年の長期農業体験（研修手当：月158,000円）へと進む。その後、さらにセンターが運営する鶴川研修農場で実践研修（研修助成金：月100,000円）を受ける。研修中から地域担い手育成センターが実施する農業講習会に参加して高い栽培技術を学べ、交流会を通して地域との繋がりもできる。修了後は就農時に300万円の補助金が受けられる町の単独事業があるほか、

農業者から選ばれた“就農協力員”が農地や住まい探しをサポートしてくれるなど、万全だ。



MAP

JAむかわ  
(むかわ町)



↑100坪のハウスが11棟並ぶ鶴川研修農場。トマト、春レタスをはじめニラ、ホウレンソウの栽培が学べる。



### 鶴川農業協同組合（営農部）

北海道勇払郡むかわ町文京2丁目2-1  
☎0145-42-2842  
<http://www.ja-mukawa.or.jp/index.html>

研修生へのインタビュー

## 研修を修了し地域で独立就農

小笠原弘義さん 54歳  
農地 1.55ha  
(ビニールハウス 100坪×12棟)  
作物 トマト



↑左から小笠原さん、JAむかわ営農部の藤田さん、むかわ町役場の宮村さん。

平成20年に神奈川県からむかわ町へ、研修1期生として移住した小笠原さん。きっかけは「新・農業人フェア」へ参加したこと。「もともと、北海道は好きでしたが、農業をやるうえで、北海道産」というブランドは魅力でした。その中でもむかわ町を選んだのは、積雪が少なく年間を通して農業ができることや、「新・農業人フェア」で農業者とJA、行政が一体となって就農支援に取り組む姿が見えたことが決め手でした。」

独立就農して7年が経過し、現在でも基礎研修の経験が生きている。

「研修受入農家でトマト栽培をメインに7か月研修し、その後、関係機関等の指導の下、鶴川研修農場で1年間の研修を受けました。鶴川研修農場ではハウスでトマト7棟、ニラ1棟での研修を行うとともに、農業資材の費用や売り上げ手数料などが実践的に学べて、独立就農の具体的なイメージを持つことができました。この経験が今でも生かされています。」

独立就農1年目でトマトとレタスで年間売上1200万円を達成し、その後の経営は軌道に乗っていた。

「サポート体制には、JAの営農相談課もいるので、資金調達や農地確保などもスムーズにでき、1年目は作物の管理に専念することができたため、売上にも結果が出たと思います。現在も安心して農業に専念できています。むかわ町は、就農希望者のやる気に応じてくれる環境が整っています。」